

「地域循環圏」の情報は、環境省HPで得られます。

- 「地域循環圏」づくりの詳細なガイドライン
- 「地域循環圏」づくりの先進的事例
- 「地域循環圏」づくりを国が進めようとする理由 など

http://www.env.go.jp/recycle/circul/area_cases.html

地域循環圏とは

概要

- 「循環型社会」を形成していくためには、地域の特性や循環資源の性質に応じて、最適な規模の循環を形成することが重要です。
- 「地域循環圏」とは、地域で循環可能な資源はなるべく地域で循環させ、それが困難なものについては物質が循環する環を広域化させていき、重層的な地域循環を構築していこうという考え方です。

これまでの取組

- 平成25年度ガイドラインに基づく地域循環圏形成計画の策定に向けた**モデル事業**を実施。
- 平成25年5月 [第3次循環型社会形成推進基本計画 \[PDF\]](#)において「地域循環圏」の高度化を明記
- 平成25年3月 「地域循環圏形成グッドプラクティスの事例集」を作成。
- 平成24年7月 「[地域循環圏形成推進ガイドライン \[PDF\]](#)」を公表。
- 平成20年度 [第2次循環型社会形成推進基本計画](#)において「地域循環圏」の考え方を明記。

その他、以下の情報もあります。

エコタウン

(環境省)

<http://www.env.go.jp/recycle/ecotown/>

(経済産業省)

http://www.meti.go.jp/policy/recycle/main/3r_policy/policy/ecotown.html

バイオマスタウン

(農林水産省)

http://www.maff.go.jp/j/biomass/b_town/

地域活性化

(内閣府)

<http://www.chiiki-info.go.jp/>

地域循環圏

づくりのはじめ方

-循環型社会の実現に向けて-



平成26年3月発行

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部企画課
循環型社会推進室

〒100-8975東京都千代田区霞が関1-2-2

TEL : 03-3581-3351 (内線6819)

FAX : 03-3593-8262

E-mail : junkan@env.go.jp

URL : <http://www.env.go.jp/recycle/circul/>

地域循環圏づくりのはじめ方

-循環型社会の実現に向けて-



天然資源の消費が抑えられ、環境への負荷がこれまでよりも減る社会、「循環型社会」。

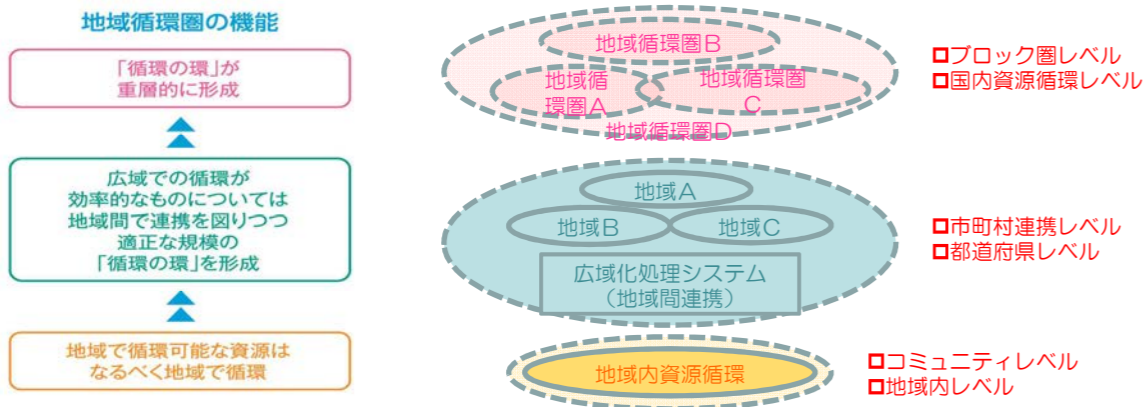
そのような社会を実現していくため、環境省では、3R（リデュース・リユース・リサイクル）など、さまざまな取組を進めています。

このパンフレットでは、物質の循環に係る「地域循環圏」の考え方を紹介しています。

資源の更なる有効活用に向けて、日頃の活動を振り返り、また、更に取組を発展させていく際の一助として御活用いただけましたら幸いです。

「地域循環圏」とは

- 「循環型社会」を形成していくためには、地域の特性や循環資源の性質に応じて、最適な規模の循環を形成することが重要です。
- 「地域循環圏」とは、地域で循環可能な資源はなるべく地域で循環させ、それが困難なものについては物質が循環する環を広域化させていき、重層的な地域循環を構築していこうという考え方で。



「地域循環圏」の考え方を活用するには

こんなときに有益です。

- 地域で循環させることのできる資源をもっと有効的に活用したい。
- 廃棄物の量をもっと減らすための良い方策がわからない。
- 今までの環境活動の幅を広げて、“地域づくり”も行いたい。
- 今取り組んでいる環境活動の“成果の数値化”をすることで、活動の仕方を改善したい。

※「地域循環圏」の考え方をどう活用するのか、ということに正解はありません。今行っている活動、施策を改善したい、次の展開を考えたい、というときの一助にしてみてください。

活用例



地域住民による放置竹林の整備活動



竹工芸講座の開催



廃竹材を利用した観光用力車の製作

出典) 平成22年度 環境省 循環型社会地域支援事業 「竹・土・水の社会循環型3R事業 ～近江八幡の三方よしを活かして～」

「地域循環圏」形成の3の基本軸と1 2の基本方針

「地域循環圏」づくりは、次の3つの基本軸から始まります。

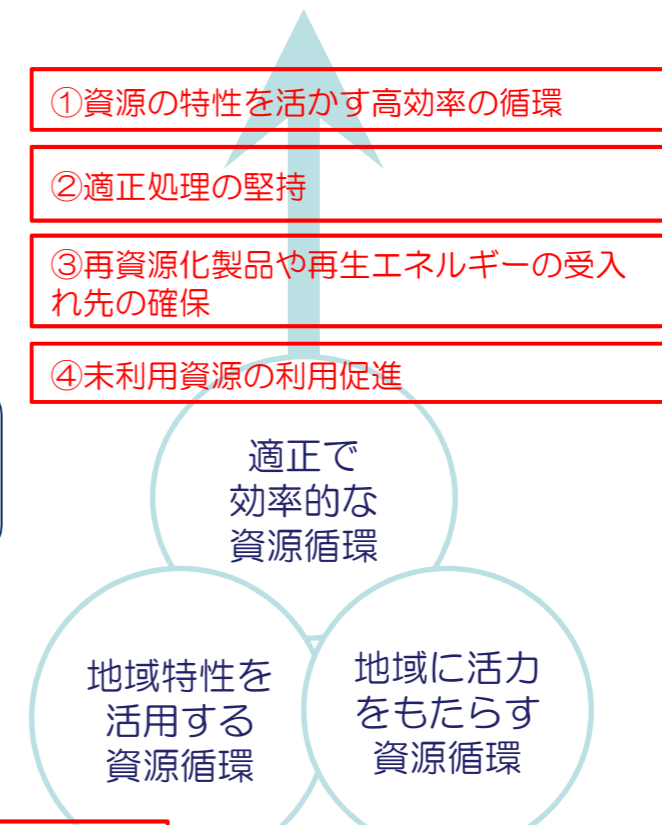
3つの基本軸

- 適正で効率的な資源循環
- 地域特性を活用する資源循環
- 地域に活力をもたらす資源循環

地域循環圏づくりでは、

- この3つの基本軸となる考え（単なる資源循環システムに留まらないための構成要素）に基づきつつ、
- それぞれの考え方を実際の行動に落とし込んでいくための1 2の基本方針（地域循環圏づくりを進めるに当たっての観点）を踏まえながら、取組を進めていくことが重要です。

循環システムの構築・拡充展開



青字：3つの基本軸

赤字：1 2の基本方針

- ① 資源の特性を活かす高効率の循環
- ② 適正処理の堅持
- ③ 再資源化製品や再生エネルギーの受け入れ先の確保
- ④ 未利用資源の利用促進

- ⑤ これまでの循環型社会形成の取組みを踏襲し、2Rの推進
- ⑥ 動脈産業との連携
- ⑦ エコタウンなどの循環型産業集積基盤の積極的な活用
- ⑧ 地域型の新しい生産・消費チェーンシステムづくりの促進

- ⑨ 新しい環境ビジネスの創出
- ⑩ 都市交通やエネルギーネットワーク等の社会インフラ整備とも連動
- ⑪ 民間企業の活力や創意工夫を積極的に活用
- ⑫ 経済、暮らしを含む地域活性化

社会基盤の活用や社会システムの整備

経済活動や地域活動の活性化

地域循環圏の形成は、家庭から仕事、社会まであらゆる場面で3Rの取組みを加速化し、地域の活性化に貢献していきます。

中部地方における
地域循環圏形成モデル事業

- 名古屋駅周辺地区において食品残さ・紙類の分別徹底による削減・再資源化地域循環圏の事業モデル
- 食品残さについては、消費者の評価を販売促進に結びつける新たな価値創出を図るため、都市と近郊の里地をつなげるリサイクルループを形成
- 紙類については、事業採算性の確立可能な仕組みを構築
- 目的
特定農畜水産物の活用と価値創出
雑紙の集約回収



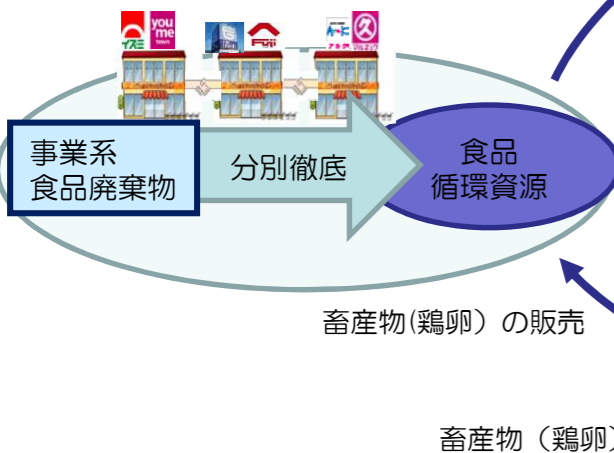
福岡県南筑後地域
プラスチック等循環圏形成モデル事業

- 事業モデル
福岡県南筑後地域7市町（人口約30万人。プラスチックの再資源化が成り立つ規模。）において、以下の焼却ごみの資源循環を実施。
・プラスチック（マテリアル・油化燃料・RPF。焼却ごみの容積の半分を占め、焼却時の温室効果ガス排出量も大きいため、事業の軸に。）
・紙・布
・紙おむつ
- 目的
焼却ごみの大幅削減（プラスチックを事業の軸にすることで実現。）



山口県南部
食品廃棄物循環圏形成モデル事業

対象地域：
山口県南部のスーパー 食品循環資源の収集運搬
3社で実証事業実施



- 事業モデル
食品循環資源の飼料化と、鶏卵の生産と販売を実施
- 目的
食品循環資源の地域循環の可能性と課題
食品小売業のリサイクル率向上
農畜産物のブランド化、地産地消の取組み

(1) 家庭や地域活動では……



(2) 企業マネジメントでは……



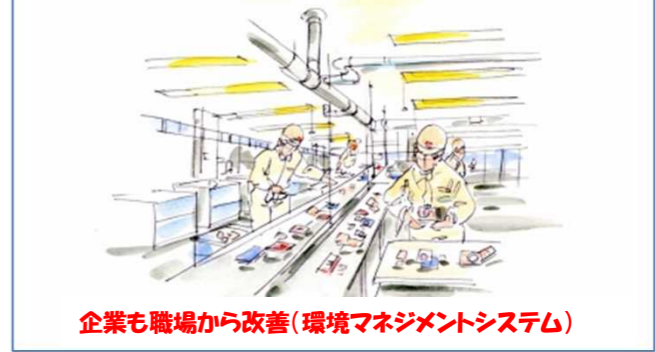
(3) オフィスでは……



(4) 商店街、スーパー、ショッピングモール、コンビニなどでは……



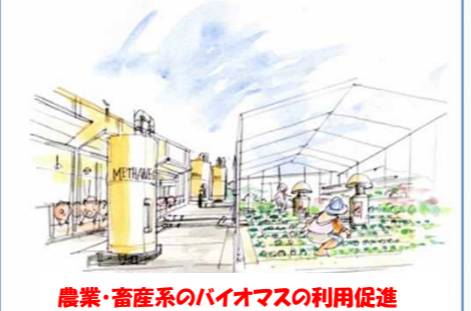
(5) 工場や生産現場では……



このような効果が期待できます

- 地域活力の向上
- 新しいライフスタイルやワークスタイルの提案
- 地域の結びつき向上
- 雇用や新しいビジネスチャンスの創出
- 新しい環境技術開発や人材育成の促進

(6) 農林水産業では……



(7) 公共交通機関などでは……



(8) 学校などの教育現場では……



(9) レストランなどでは……



(10) 研究機関では……



循環拠点からみる地域循環圏の概念イメージ

❖ 地域循環圏は、地域で循環可能な資源はなるべく地域で循環させ、地域での循環が困難なものについては循環の環を広域化させていくという考えです。

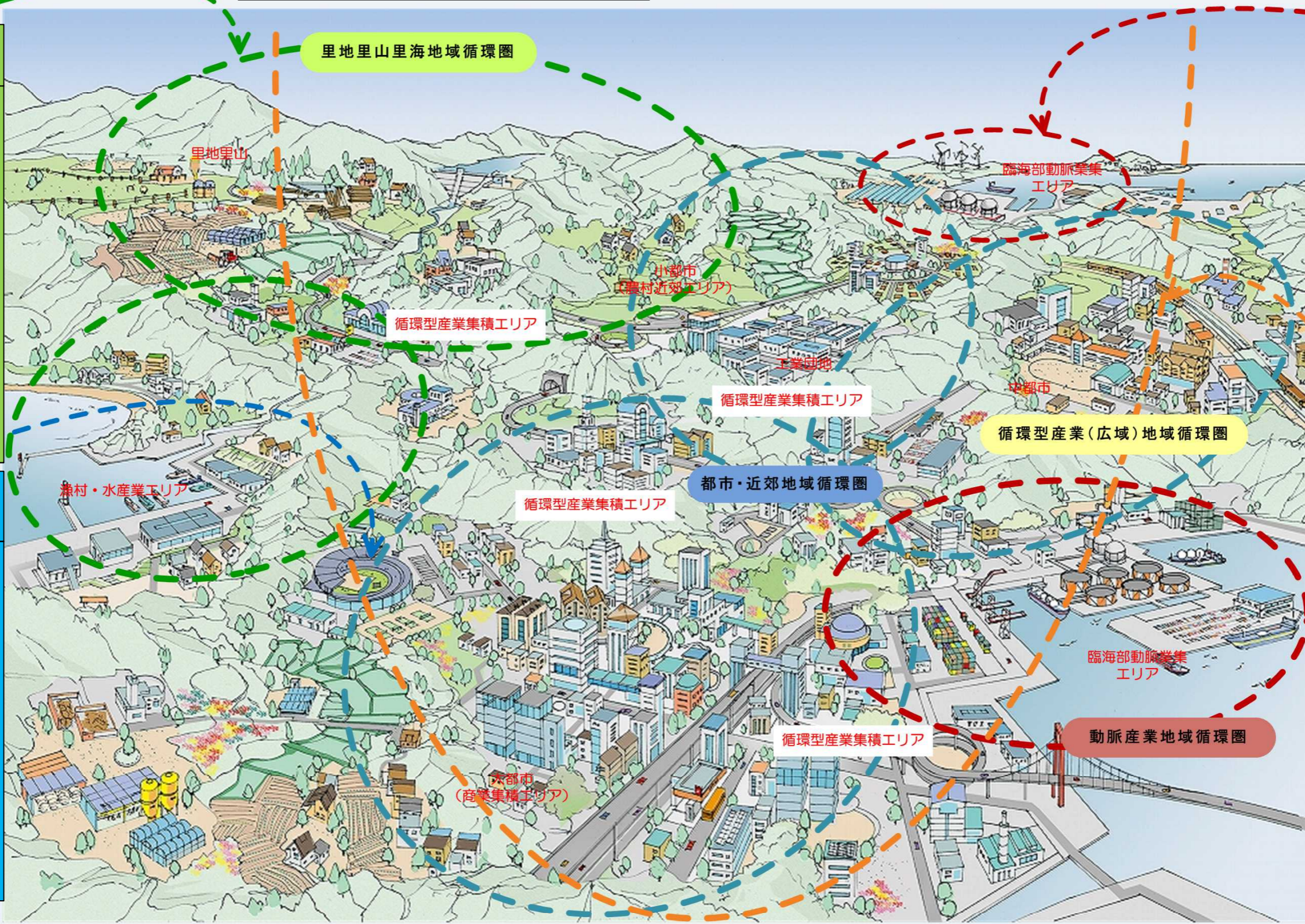
地域の経済活動の立地特性を踏まえたうえで、地域の社会基盤特性、産業集積及び環境資源の立地等、加えて資源環境の高度化による地域活力の促進等を考慮すると、4つのタイプを想定することができます。

里地里山里海地域循環圏

- ❖ 農村、漁村を中心とした循環圏で、農林業や水産業に由来するバイオマス資源の地産地消的な利活用を推進します。
- ❖ 具体的には、農業や畜産由来の廃棄物のメタン発酵、生ごみの堆肥化、飼料化、林地残材のチップ燃料化を組み合わせながら、低炭素型の循環システムを構築していきます。
- ❖ また、里地里山保全や環境学習などのコミュニティ活動も併せて活性化させていきます。

都市・近郊地域循環圏

- ❖ 人口集積の多い都市エリアでは多種多様な循環資源を排出します。都市近郊の農村地域の連携も含め、静脈産業集積地（エコタウン等）や動脈産業の集積（臨海部工業地帯や工業団地等）のエリアとも連携をはかりながら、効率的な資源循環を構築していきます。



動脈産業地域循環圏

- ❖ セメント、鉄工、非鉄精錬、製紙等の基幹産業の基盤やインフラをこれまで以上に活用しながら、循環資源を大量に抱えもつ大都市エリアとの物流システム等を高度化させ、より効率的な循環システムの構築やエネルギーの利活用システムを高度化させていきます。

循環型産業(広域)地域循環圏

- ❖ 循環型産業が集積されたエコタウン地域での保有する転換技術や広域静脈物流などをより一層高度化させ、これまで、効率的な変換処理システムが確立されたり小型電子機器等リサイクルなどを、動脈産業地域循環圏との連携をはかりながら、有用金属の回収などで優位性のあるシステムを形成していきます。